

県道15号 名古屋多治見線【通称：愛岐道路】 現地状況のお知らせ

-多治見土木事務所-

これまでの調査で判明した被災原因と、復旧に向けた現在の調査状況についてお知らせします。

皆様には大変ご不便をおかけしておりますが、岩盤が地中でどのようなようになっていて、どのように対策を進めるのかについて、学識者も交え鋭意調査・検討を行っていますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

調査概要

地盤の内部の硬さや緩みを図る調査（表面波探査）を行うと共にボーリング調査を行いました。併せて、斜面の凹凸、亀裂や植生など詳細な調査をすると共に、周辺の地形、地質や気象状況なども調査しました。

被災原因

今回の岩盤崩落は、以下のいくつかの要因が重なって起きたと考えられます。

- ✓ 硬く脆い性質のため割れ目(亀裂)が発生しやすい地質であると共に、地層の向きが水平ではなく斜面と同じ方向となっていた。
- ✓ 急こう配の切土により元々かかっていた地山からの圧力がなくなり、切土面周辺が緩む現象が起きた。 ※切土で生じる通常の現象
- ✓ 施工後長い年月をかけて岩盤表面の風化や緩みが進行していた。
- ✓ 崩落箇所は、降雨等の水が集まりやすい地形であり、岩盤の亀裂から水が浸透していた。
- ✓ 北向き斜面で冬季の気温低下が著しく、亀裂内では凍結融解作用が繰り返された。
- ✓ 亀裂内には植物根の侵入もあり、亀裂の拡大を助長した。
- ✓ 崩落2日前の降雨、前日及び当日の気温低下による凍結融解。
- ✓ 崩落約1月前の地震。

対策の方向性

岩盤崩落は、幅約6m、高さ約7mの範囲で発生しましたが、愛岐道路においてこの被災原因と条件に近い箇所として、写真の一連斜面について対策の必要性を検討しています。

※ 現在は、対策工法の検討を進めるなかで、適宜現地調査を実施し必要となる情報を取得しています。



お問合せ先

岐阜県多治見土木事務所道路課

TEL：0572-23-1111(内線315)